

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3291800013		
法人名	株式会社 海愛		
事業所名	グループホーム ふくろうの森		
所在地	島根県邑智郡川本町川下1319番地15 (電 話) 0855-72-3555		
評価機関名	特定非営利活動法人 コンティゴしまね		
所在地	島根県松江市西持田町362-42		
訪問調査日	平成 19年10月18日	評価確定日	平成19年11月27日

## 【情報提供票より】( H19年 10月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 12.02 人

### (2)建物概要

建物構造	RC(鉄筋コンクリート) 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1, 000円

### (4)利用者の概要( 10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.5 歳	最低	60 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会江津病院、公立邑智病院、加藤病院、かわもと診療所、原田歯科医院
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに川本公園・野球場や小・中学校があり、隣家との間は広く開放的なホームである。開設して3年半余になるも、経営法人の事情で6月に新たな法人により再出発となったが、入居者、職員とも変わりなく継続した運営が行われ、これまでの優れた生活支援の質を更に高めている。例えば生活の記録を一覧できる工夫等を継続し、確実なかつ自信に満ちた運営が行われている。特に、地域との交流は入居者と職員が一体となって積み重ね、地域の一員として避難訓練へ参加するまでになり、「こども110番の家」としての役割も担っている。その独自の運営は、他の模範・目標となる優良ホームの一つといえる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	6月新規の事業所となりあえて当欄の記載は必要ないが、前回の改善事項2点(「全職員が緊急時の対応が出来るように」と「介護計画の見直しは柔軟に対応する。ケースカンファレンスの楽しみを知る。」)については直ぐに改善目標、計画内容や時期を決め改善し、またその結果を評価して全員で効果を認識している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員ひとり一人が自己評価を行い、それを持ち寄りグループで更に検討を行い、できるものは直ちに見直しを具体に進めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域との交流が進められているなか、運営推進会議の内容は充実し、活発で率直な意見交換が行われている。地区の集会所で行ったり、開催日時も土曜日午前と地域女性も参加しやすい工夫もしている。昨年より地域を挙げての防災避難訓練が行われているが、会議でも連携の強化が話し合われ実践につながっている。管理者の幅広い人脈と努力により、関係部署の担当者との行き来も多くあり、また「ふくろうたより」などを送り、サービスの質向上への情報交換も行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月のお便りに担当職員が入居者の近況を書き添えたり、行事や生活面でのスナップ写真を付けている。預かっている金銭の出納簿と領収書を送付している。家族とホームが何でも話せるような雰囲気作りを意識し、玄関には何でも記録できるノートが置いてあり、自由に書け、読める。苦情の窓口も表示・案内している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者の散策の効果もあり隣近所と付き合いができ、自治会総会・盆踊り・運動会や老人会の草取り等の奉仕活動へも参加している。また、生け花等のボランティアも始まり、小学校の「こども110番の家」や中学校の「職場体験」の場として、地域交流に努めている。地域向けの広報紙「ふくろう便り」で生活ぶりを伝えている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	経営法人が変わったのを機に、理念を見直し「尊厳と安心のある生活」の実現に向け「1. すてきな笑顔・心地よい言葉・温かい心で対応します。」「2. 身体が動く・心が動く、そんな楽しい時間を共にします。」「3. 地域の中で、その人らしい暮らしを継続します。」「4. サービスの質は職員の質により保証します。」の指針を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新たなスタートにあたって、全職員が話し合いつくり上げた理念であり、特に「サービスの質は職員の質により保証する。」を日常実践の目標にし、ケアの専門性を高めようと日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の散策もあり隣近所と付き合いができ、自治会総会・盆踊り・運動会や老人会の草取り等の奉仕活動へも参加している。また、生け花等のボランティアも始まり、小学校の「こども110番の家」や中学校の「職場体験」の場として、地域交流に努めている。ミニディ参加も予定している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ひとり一人が自己評価を行い、それを持ち寄りグループで更に検討を行い、できるものは直ちに見直しを具体に進めている。前回の外部評価で改善項目になった2項目について「改善計画シート」を使い、計画実施期間を定め、その結果を評価して改善を全員で確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域との交流が進められるなか、運営推進会議の内容は充実し、活発で率直な意見交換が行われている。地区の集会所で行ったり、開催日時も土曜日午前と地域女性も参加しやすい工夫もしている。昨年より地域を挙げての防災避難訓練が行われているが、会議でも連携の強化が話し合われ実践につながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者の幅広い人脈と努力により、関係部署の担当者との行き来も多くあり、また「ふくろうたより」などを送り、サービスの質向上への情報交換も行われている。また、町の認知症関係の研修や保健関係の研修の講師として協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りに担当職員が入居者の近況を書き添えたり、行事や生活面でのスナップ写真を付けている。本人の直筆や絵を添えたりもしている。預かっている金銭の出納簿と領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とホームが何でも話せるような雰囲気作りを意識し、玄関には何でも記録できるノートが置いてあり、自由に書け、読める。苦情の窓口も表示・案内している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は1件と少ない。新規職員は入居者にはもちろん家族へも便り等で紹介している。職員との馴染みの関係を大事にしていて、業務に慣れるまでは日中勤務とし、先輩職員が教育・指導し、入居者にも馴染んでもらえるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は現場に入りOJTを徹底している。また、職員に自己目標を設定させ、ロッカーに貼り日々の研鑽を求め、仕事をしながら介護福祉士やホームヘルパーの資格取得にも配慮している。内外の研修へも積極的に参加し、研修報告書の回覧や研修報告で情報の共有化を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	しまね小規模ケア連絡会に加入し、情報交換や研修の機会を持っている。近隣の関係事業所との情報交換や交流をしている。昨年までは他事業所への見学・実習をしていたが、存続問題もあり今年度はまだできていない。	○	実務の交流だけでなく、ホームで実践努力した方法や成果を外部へも発表報告し、サービスの質向上へその普及を図ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の段階でホームの見学を促し、雰囲気と生活の様子を知ってもらい、生活支援について本人、家族と話し合っている。申し込み後も短時間でも回数多く訪問を勧め、ホームに馴染んでもらうなどの支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩から、その豊かな人生経験や料理等の技能を学ぶことができ喜び楽しんでいる。入居者と一緒に当日の昼食の賄をしていた新人職員は、大根と人參の酢の物をした時、大根辛さに柿を加える知恵を教わったと尊敬の念を込めて感動していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で交わす言葉や表情、しぐさ等から、入居者の思いや意向を汲み取り、ケア記録に記述している。生活の様子の記録は「ニコニコチェック」等工夫を重ね一覧できる様式を創り上げている。思いや意向を明確にするために、記録された情報を基にカンファレンスで真意は何かを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が中心になって介護計画の原案を作成するが、日頃の関わりの中で本人や家族からの意見や意向を聴き取り記録し、それを基に日々のミーティングや月1回のカンファレンスで話し合いをしている。日誌に目標を印刷したり、ニコニコチェックで生活全体を把握するなど記録の工夫を積み重ねている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回ケースカンファレンスをしているが、計画の期間終了時には評価を行い見直しをしている。状態等の変化があれば、家族や担当医師等の意見を求め、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、機能の拡大に努めている。家族の事情により通院などの付き添い支援も行っている。法人の変更により新規の事業所となったため、短期利用生活介護の指定が受けられなくなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、入居時に話し合い、本人家族の希望を尊重している。かかりつけ医からの情報提供を受けて、医療が継続するようにしている。受診は家族対応としているが、希望があればその送迎支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師を配置し医療連携体制をとっている。看取りの指針を「豊かなラストステージ指針」として準備し、入居時に説明している。早期に方針を確定するのではなく、その必要となる時期に本人や家族、かかりつけ医、医療機関と話し合いながら方針をその都度検討し修正する柔軟さを大切にしている。	○	入居時に指針の説明だけではなく、その必要時期に再検討するとしても、本人、家族の意向を確認するようにしてほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛や対応については全体会議で話し合いをしている。気になる言動があれば、その都度注意している。また、食事が食べにくくなった入居者があり、プランターボックスでさりげなく、入居者同士の視線を避けられるように工夫等している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食堂兼居間で新聞を読む人、テレビを観る人、洗濯物を干しに出かける人、一人で散歩をする人、昼の間で横になる人、お茶を準備する人、居室にいる人とそれぞれが自分のペースで過ごしている午前10時下りの風景だった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の選択と買い物、献立から調理、盛り付け、片付けや洗物等一連の流れを入居者と職員が一緒に行っている。1階2階献立はちがう。職員も一緒にテーブルを囲み、当日も畑で収穫したサツマイモの料理を中心に談笑しながら食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日何時でもでき、2階の入居者はほとんどが毎日入浴している。本人の体調(心不全等)に応じシャワー浴や清拭も行われている。時々風呂を好まない入居者など3名くらいが近くの温泉へ出かけ、職員と一緒に入湯している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とすること手馴れたことを職員が把握し、それぞれの役割りができるようにし、誰にも感謝を忘れないで言葉掛をしている。草取、インターホン当番、台所や買い物、あるいは手工芸、絵画や書道等関心や興味のあることを各人がマイペースで行っている。動きが少なくなった人にもお絞り干し等できる工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	洗濯物を干しに出る人、道路わきの雑草を刈り取る人、老人車を押しながら近所を散策する人もいる。毎日の買い物やドライブもあるが、風邪を引かないように外気浴をして外のベンチでだんらん人もいる。携帯酸素を必要とし歩行も困難な人への外出機会を増やすを計画している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も裏の出入り口も戸を開け放ち、自由に出入りできるようにしている。30分毎に所在の確認をしている。一人で散歩する人もいて、地域の人とも顔馴染みになり、自然な見守りができている。初めはトラブルもあったが、継続することで近隣の理解を得られ、受け入れられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで避難訓練を行っている。防火管理者研修にも複数の職員が参加している。訓練は毎年計画的に地域の住民とも連携して行い、今年は地域の総合避難訓練にも参加し、炊き出し用の米の提供を受け持った。避難用品の準備、サイレンテスト、米の備蓄など地域からの助言を得ながら整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況はひとり一人「ニコニコチェック表」に色分けして細やかに記録している。できた料理を写真に撮り、内容、色合いや盛り付け等を利用者とも検討している。糖尿病の人もいるが、看護師と担当者が適切なカロリーや食事形態について工夫している。間食も含めて摂取量をみている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下、屋外にもベンチや椅子、ソファを置き休む場所を設けている。花もあちこちに生けてあり、廊下やホールには昔懐かしい家財などが置かれ、壁には絵画やカレンダーなどを掲示し、落ちついた雰囲気を出している。外から直視できる窓に目隠しシールしたり、入居者がお互い気にならないように棚を置いて落ち着けるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台がありトイレは2人で一箇所別にある。自分の好みの家財やベットの配置で、馴染みの家具や調度品や飾り物が持ち込まれ、落ち着けるようにしてある。居室で過ごすことの多い人には、明るい部屋を配慮している。		